月刊宮司プレス　第二百三十二号

彦島八幡宮　宮司ニュース
発行者　彦島八幡宮
宮司　柴田　宜夫
発　行　令和七年　九月二十一日

◇宮司の柴田です。　朝明けが遅く、夜の帳が降りてくるのも早くなりつつありまして、日が短くなってきました。　過日の九月十九日の朝などは、虫の声を耳にしました。　古今和歌集の藤原敏行の和歌を思い出しました。　この和歌は、立秋に詠まれたそうです。

「秋きぬと　めにはさやかに　見えねども
　風の音にぞ　おどろかれぬる」

ようやく秋めいてまいりました。　外国の方は、日本の仲秋の風物詩でもある、このような「虫の声」は、俄には信じがたいのですが、いわゆる、「ノイズ」、つまりは、雑音と感じるのだそうです。　季節の移り変わり、「花鳥風月」を愛でつつ過ごしてきた日本人の伝統的な情緒、今さらながら、日本人でよかったと、感謝させられます。　しかしながら、大自然は、連日、テレビ画面に写し出されるように、目をおおいたくなるような爪痕を残し、尊い人の命さえも奪ってしまいます。　今は亡き作家の司馬遼太郎さんは、「昔も今もそして未来においても変わらないことがある。　そこに空気や水、土などという自然があって、人間は自然によって生かされて生きてきた。　人間は助け合って生きてきたのである。」と述べられています。　まさしく、前述の自然災害を目のあたりにしてはじめて、人間も大自然の一員に過ぎない、まさしく「厳父」の大自然に畏敬の思いを新たにさせられます。　しかし、自然は、折節の移ろいに、私どもの心を和めてくれますし、豊かな恵みを与えていただけます。　これこそ「慈母」、感謝の心で、敬わなければなりません。

◇自然災害には、「三つの備え」が必要です。ひとつは、「物の備え」、昨今は、「ローリングストック」といわれていますが、生活必需品の備蓄です。　さらに、「行動の備え」、これは、避難行動、非常事態に対応する備えです。　そして、一番大事なのが、「心の備え」です。　自然災害を「畏れ」、花鳥風月を「敬う」、この「畏れ」と「敬う」をミックスした心である、「恐む」、「正しく恐れる」という「心の備え」が、必要ではないでしょうか。

◇進化生物学者の長谷川眞理子さんは、「人は本来、助け合う生き物として進化してきた」と述べられています。　さらに、「なぜ人においてこれほど利他的な行動が進化したのか、それは、人に《心》があったからだ」と主張されています。　人の身体が、進化によって適応的につくられたように、人の心も、また、進化したのだそうです。　詩人の坂村真民さんも、「こころを持って生まれてきた　これほど尊いものがあろうか　そしてこの心を悪く使う　これほど相すまぬことがあろうか　一番大事なことはこのこころに花を咲かせること」とおっしゃっ

ています。　心が進化すれば、不安や恐怖を受け入れていくなかで、柔（やわら）らかく適応していけるのではないでしょうか。　心を進化させることとは、心を悪く使わず、心に花を咲かせる、「正しく恐れる」という「心の備え」を万全にすることではないでしょうか。　まさしく、これは、真心こめて神明に奉仕する、敬神生活の実践しかありません。　御自愛をお祈り申し上げます。

◇九月の祭典行事報告（予定も含む）

▼月次祭　＊九月一日、十五日

▼貴布禰神社月次祭　＊九月一日

▼若宮神社例祭　＊九月五日

▼若宮神社奉納平家踊り

▼朝粥会

＊九月二十一日

▼秋季祖霊祭　＊九月二十三日

▼貴布禰神社例祭

＊九月二十三日

◇九月の宮司動静（予定も含む）

▼神社関係団体

◆早起会参拝　＊九月一日

◆維蘇志会奉仕作業、例会

＊九月二十五日

▼神社庁関係

◆神社庁正副庁長会議　＊九月四日

◆阿萩支部総代会総会　＊九月五日

◆神社庁役員会　＊九月十六日

◆神社庁教化委員会　＊九月十九日

◆神社庁神宮大麻増頒布推進会議

＊九月十九日

◆神社関係者　＊九月二十九日

▼神職養成講習会

◆神社神道概説Ⅱ講義

＊九月七日～八日

◆成績判定会議、閉講式　＊九月九日

▼自治会、学校関係、人権相談員、その他

◆人権相談　＊九月三日

◆マリンビーチ清掃作業　＊九月六日

◆玄洋校区あいさつ運動　＊九月十日

◆山口県人権擁護委員連合会研修

＊九月十一日

◆迫町自治会　＊九月十七日

◆人権擁護委員研修　＊九月十八日

◆西山小三年生安全マップ作製授業に参加

＊九月二十五日

◆西山小ＣＳ（学校運営協議会）

＊九月二十五日

▼教誨活動（美祢社会復帰促進センター）

◆集合教誨（男子）

＊九月二十二日